

大学院サステナビリティ学教育プログラムの演習科目として、タイ王国にて国際実践教育演習を実施しました。(2017年8月24日～9月1日)

タイ・パンガー県のコクライ村において「国際実践教育演習」(2単位)のフィールドワークを2016年8月24日(木)から9月1日(金)までの9日間実施しました。

この演習では、学内の大学院4研究科すべてより加学生を募りました。本学からは9名の大学院生が参加し、タイ側のプーケット・ラチャパット大学(PKRU)の学部生12名やコクライ村の村人と共に調査を進めました。PKRUとは、2013年に全学の学術交流協定に格上げされ、PKRU全体でも本演習が単位化されるなど連携が強化されています。

演習の舞台であるパンガー県は、観光地として有名であるプーケット県の隣に位置しており、外国人観光客はわずかです。マングローブの林、水牛が闊歩するのどかな風景の広がるコクライ村にてホームステイをしながら、課題に取り組みました。

現地では、専門の異なる学生がそれぞれ「廃棄物」、「エコ・ツーリズム」、「健康」の3班に分かれ、村に見え隠れする諸問題について、村人と現地の学生を交えて議論し演習を進めました。2009年より始まった本演習も今年で9年目となりました。今年では6年間調査を続けてきたプーケット県マイカオ村からフィールド先を変わって3年目となります。昨年の演習での提案(分別式のごみ収集所の設置)が形になり、エコ・ツーリズムでもツアー客が増え受け入れ態勢が整うなど、この2年で村の様子にも変化が表れています。

「廃棄物」班は、小学校でのゴミ分別講習会や共用ゴミ箱への分別サイン設置の提案、「エコ・ツーリズム」班は、村が今まで行ってきたエコ・ツーリズムコースのまとめとプロモーションビデオの作成、「防災」班は、小学生と一緒に防災訓練を実施し、ハザードマップを作成しました。

また、演習中は、村人の家にPKRUの学生と3泊ホームステイし、学生間だけでなくホストファミリーと交流する機会も持つこともできました。日本・タイそれぞれの学生は、SNSを通して帰国後も交流が続いています。異文化での演習、英語でのコミュニケーション、自身の専門外のテーマへの取り組みなど、普段の大学での研究とは違う状況に困難を感じる場面もありましたが、タイの大学や村人の協力に支えられ、演習を終えることができました。今回、様々な壁にぶつかりもがいた体験が、帰国後に自らの専門へと戻った時に大きな力となることを期待しています。



村の泥SPAを目当てに観光客も集まってくる



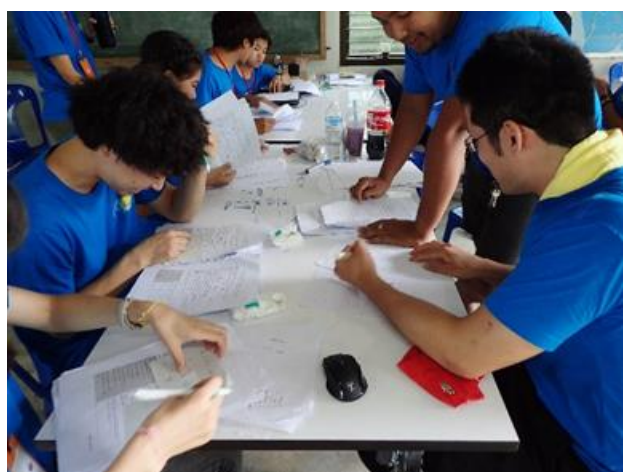
村人を交えてのディスカッション



村の特産品、タイヤを利用した牡蠣の養殖風景



ココナッツの繊維を利用したコンポスターづくり



アンケート調査の



文化交流会



村人や高校生を交えての集合写真



村の小学校でリサイクルの



タイの学生と一緒に修了式



村での成果発表会